

令和8年度 茨戸小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：22008

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
成 果	課 題
◇ICT の活用の継続で興味関心をもって学習に取り組む姿が見られるようになった。 ◇家庭学習ノートの推進、宿題の継続を進め、自分で問題意識をもって学習できる力を育成してきた。 ◇UDL の考えを生かし、子どもたちが安心して学ぶことができるように学習環境、教材の提示に工夫を凝らした結果、学びに対する意欲が高まっている。	◇NRT 学力検査から、全国水準と比べると国語、算数ともに低い傾向が見られる。 ◇学習習慣が身に付いてきている児童が増えてきたが、まだまだ家庭との連携を継続していく必要がある。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇「縦割り活動による異学年交流を実施」「運動会での低学年・中学年・高学年の表現の新設」「学習発表会でのメッセージ交換」「体育館利用の異学年利用による交流」等、異学年同士の交流の場を設定している。交流と、子ども同士の相互評価の場を継続的に実施することで、自己肯定感や自己有用感につながるように価値付けていく。	
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
自ら学びを調整し、社会に参画しようとする力	
課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
(1) 授業実践を行い、交流し合うことで、「わかる・できる・楽しい授業作り」に取り組み、全校の子どもに全教職員で関わられるように共通理解を図る。 (2)教職員の指導力の向上を目指し、研修活動の充実を図る (3)家庭との連携を図り、家庭学習の啓蒙を行う。 (4)総合的な学習の時間のカリキュラムの再構築を行う。 (5)金融経済教育のカリキュラム作成に努める。	①委員会活動、縦割り活動、クラブ活動での児童による自治的な活動を推進。 →教師はコーディネーターとして関わる。 →計画し実施し振り返り次の活動に生かせるように取り組む ②目標を設定し毎月の活動を振り返る場の設定 →学年ごとに提案された振り返りカードにて実施
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
◇デジタル教科書、コンテンツの積極的な利用 ◇生成A I 利用に関する学習体制の構築、利用に関してのモラル教育の実践	

<本プログラムの実行に向けて>

新年度	【一人一人の教職員】	【学校全体】	次年度へ
◇プログラム共有 ・職員会議（4月21日） ・学年学級懇談（4月16日17日） ・小中一貫研究集会での全学級公開（6月9日）	◇日常の授業・教育活動 ◇各自の研修…札教研、各自研修、研究会への参加等	◇毎週木曜日の研究日活用 ◇学びの支援委員会・いじめ対策委員会との連携による児童の育ちの共有 ◇金融教育実践校としての実践の構築 ◇河川財団助成金を利用した環境整備、総合カリキュラム整備 ◇外部講師による道徳学習会開催	◇学校評価 ◇研究全体会 ◇成果と課題を共有